

# ジャガイモ (ナス科)

| 3月     | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|--------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
| 植えつけ   |    |    | 収穫 |    |    |    |     |     |     |    |    |
| 西南暖地秋作 |    |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |

## 品 種

- 〔早生種〕男爵<sup>だんしやく</sup> (収量が多く、作りやすい。肉質は粉質または中間質。貯蔵性がよい)、メークイン (肉質は中間質)、デジマ<sup>べにまる</sup>  
 〔中生種〕紅丸 (皮の色はピンクで、肉質は粘質。貯蔵性がよい)  
 〔晩性種〕農林1号 (収量が多い。肉質は粘質)

## 栽 培 ポ イ ン ト

原産地は南米の高冷地であり、ヨーロッパで改良され、日本では北海道が主産地ということからもわかるように、冷涼な気候下での栽培が適しています。

●栽培時期● 生育には15～20度、イモが肥大するには17度が適温で、高温では肥大が悪くなり、29度以上で生育が停止します。気候的な理由で北海道などの高冷地では春～秋栽培ですが、それ以外は早春～初夏栽培が普通で、九州など西南暖地では春と夏以降の二期作が行われています。春からの長日期の栽培では生育期間が長く、茎葉、イモの発育がよくなります。逆に秋の短日期には発育が早まり、短期間で成熟します。

●植えつけ● タネイモは必ず種苗検定済みの、健全無病 (ウイルス病、輪腐れ病のないもの) で栽培時期にあった品種を購入することが、失敗を避けるポイントです。

畑は排水のよい膨軟な土地がよく、湿りけの多い畑では病害の発生が多く、味も悪くなります。このような場所では高畝作りとします。また、ナス科の野菜とは連作できず、3～4年の輪作をする必要があります。

生育期間が短いので、肥料は元肥えに重点をおき速効性の肥料を用います。

春の生育初期には、地温を高めるために敷きわら、刈り草などによるマルチングが効果的です。発芽初期の芽は低温に弱く、霜の被害が大きいので、晩霜には十分気をつけるようにします。ジャガイモは、食用にされているのと同じ、イモそのものを植えつけます。イモには芽がいくつかあるので、最初の芽が霜害にあっても他の芽が発芽してくれますが、生育が遅れ、ふぞろいになります。

●管理● 一つのタネイモからは数本の芽が出るわけですが、全部を育てると茎葉が茂りすぎて密植状態となり、収量に悪影響を与えるので、芽欠き作業をして芽数を減らします。

ジャガイモは土寄せで作れといわれるくらい、土寄せは重要な作業です。土寄せは土を膨軟にしてイモの肥大を助けるとともに、イモが地表に露出して緑化するのを防ぎ、また、疫病にかされるのを防ぐのが目的です。土寄せは、一度にたくさんの土を寄せかけると、初期の地温の上昇を妨げるので少しずつ数回に分けて土をかけるようにします。

花が咲き始めると生育も終わりに近づきます。このころさぐり掘りをし、イモの肥大ぐあいをみて収穫時期の目安をはかり、茎葉がやや枯れ始めたら、晴天の日に掘りとりします。掘りとったイモは冷暗所で自然に乾燥するようにします (緑化防止)。

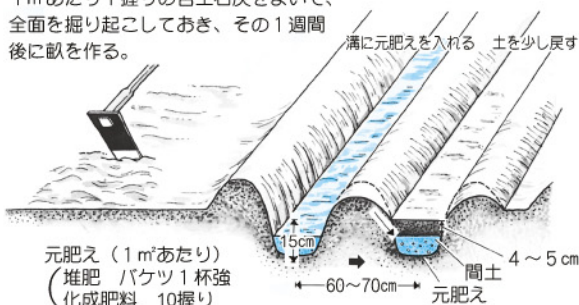
## 栄 養

デンプンの原料にされるくらいですから、栄養的にはデンプンが主体ですが、ビタミンB群、Cを多量に含んでいます。ビタミンCは夏みかん並みですが、貯蔵中に相当失われてしまいます。ビタミンCはイモを丸ゆですることによって損失が相当防止できると言われています。また、無機質ではカリ分が多く、アルカリ食品として知られていますが、これはナトリウムとのバランスがたいせつなので、食塩とともに摂取するようにしましょう。

ジャガイモの芽に多く含まれる有毒物質ソラニン<sup>ソラニン</sup>は、熱によって破壊されるので、加熱すればほとんど問題になりません。

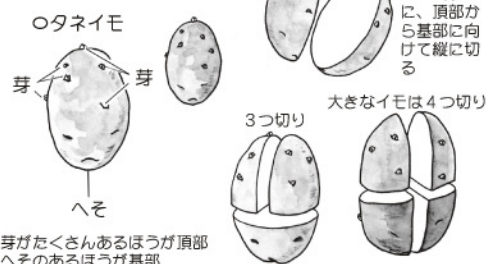
## 1 畝 作 り

畑には植えつけの半月ぐらいいまに、1㎡あたり1握りの苦土石灰をまいて、全面を掘り起こしておき、その1週間後に畝を作る。



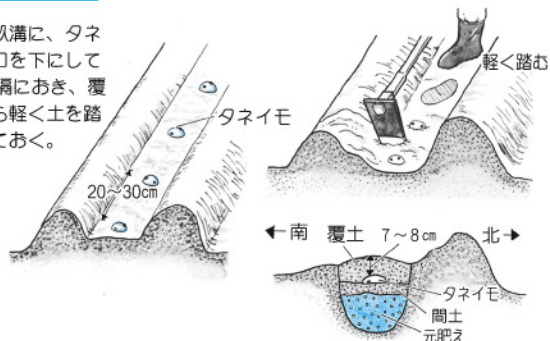
## 2 タネイモの準備

タネイモは、植えつけ時期に種苗店などで売られている無病のものを入手し、芽を二つ以上つけて、40～50gの大きさに切り分ける。



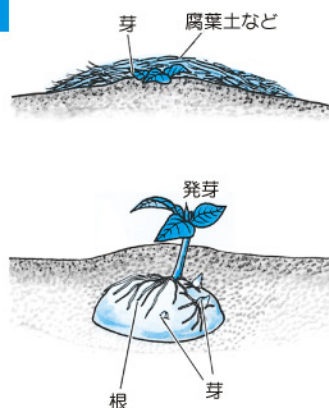
### 3 植えつけ

間土した畝溝に、タネイモの切り口を下にして20～30cm間隔におき、覆土して上から軽く土を踏んでおさえておく。



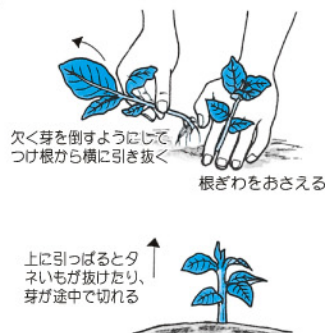
### 4 芽の保護

発芽後の晩霜の被害を避けるためには、芽が出たら土寄せをするか、腐葉土、もみガラ、堆肥などをかけて芽を保護する。



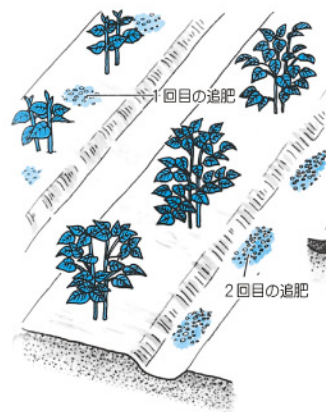
### 5 芽欠き

芽は何本も出るが、10cmほどに伸びたら丈夫な芽を2～3本残して、ほかの芽は元から欠き取る。タネイモをいっしょに引き抜かないよう注意する。



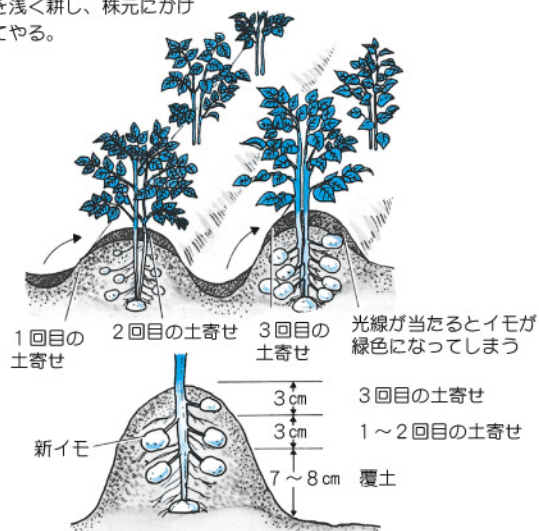
### 6 追肥

芽欠きのあと、その2週間後ぐらいに、1㎡あたり1握りの程度の化成肥料を施す。リン酸、カリ成分の比率の多い化成肥料がよい。



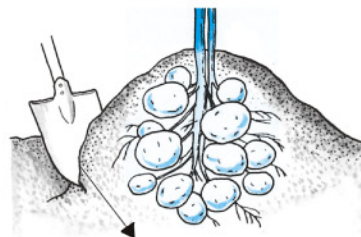
### 7 中耕・土寄せ

追肥と同時に畝間の土を浅く耕し、株元にかけやる。



### 8 収穫

開花後、茎葉が黄色く枯れ始めたら1株掘ってイモの太りぐあいを確かめてから収穫する。新しいものは皮が弱いので、ていねいに掘り取る。



**主な病害虫**  
◆病気 疫病、ウイルス病  
◆害虫 アブラムシ、テントウムシダマシ